

令和2年度薬学教育自己点検・評価結果

(1) 令和2年度卒業時アンケートの集計データ分析

薬学部においては、学生の卒業に際し、4年間又は6年間の薬学教育をとおして、自身が身に付けることができた知識、技能及び能力について、アンケート形式で自己評価をしてもらい、アンケート結果は、薬学科（表1-1）と創薬科学科（表1-2）を区別して集計した。

なお、アンケートでは学生に、「1：十分身に付けることができた」、「2：ある程度身に付けることができた」、「3：あまり身に付けることができなかった」、「4：全く身に付けることができなかった」の4つの選択肢から1つを選んでもらうこととしており、薬学教育自己点検・評価においては、1及び2の選択肢を選んだ場合「身に付けることができた」、3及び4の選択肢を選んだ場合は「身に付けることができなかった」として判断した。

< 1. 全学共通項目（表1-1、表1-2、図1、図2） >

薬学科の学生（表1-1、図1）については、1）～3）、7）～9）の項目について、80%以上が「身に付けることができた」と評価しており、これらの項目の達成満足度が高い一方、4）「口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力」と、10）の「地域を志向する意識」について「身に付けることができた」と評価しているのは、それぞれ75%と59.6%にとどまり、やや満足度が低く表れていた。これは、令和2年度においてはコロナ禍により教育手法が制限されていたことも影響していると考えられる。また昨年度までと同様に、5）「母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く、話す、読む、書く）」及び6）「国際的な視点で考えることや国際的な感覚」の2項目では、「身に付けることができなかった」という評価が70%程度にのぼり、語学教育やグローバル化対応教育において、引き続き課題が残された。

創薬科学科の学生（表1-2、図2）については、薬学科における結果と全体的な傾向は同じであるものの、昨年度と比較し、おおよそ満足度は変化なし、または上昇している状況にあると言える。ただし、語学教育やグローバル化対応教育の満足度については2019年、2020年と連続して大きくその数値を下げており、薬学科と同様に課題の残る結果となった。

< 2. 薬学部独自項目（表1-3、図3、図4） >

卒業時アンケートにおいては、全学共通項目に加え、薬学部の各学科に特化した内容の項目について、学科別にアンケート調査を実施した。

薬学科では（表1-3、図3）、医療や薬剤師に関連する4項目の全てにおいて、「身に付けることができた」という評価が92～96%を占めており、6年間の薬剤師養成教育は適切に実施され、学生の達成満足度も良好であることが窺えた。

創薬科学科では（表1-3、図4）、「創薬科学に関する幅広い学識と実験技術等を身につけることができたか」「本学の教育が今後の進路決定に役立ったか」との項目について

は、80%以上が「身に付けることができた」と評価しており、これらの項目の達成満足度は高い。また、「自然現象に対する知的好奇心・探求心を身につけることができたか」「医薬品創出に取り組むために必要な創造的思考力を身につけることができたか」の項目について「身に付けることができた」と評価しているのは、それぞれ61%と68.3%とやや満足度が低く表れるとともに、2019年、2020年と連続してその数値を下げていることから、創薬科学科に求められる学識、技術、考え方の目標達成度については、今後の推移に注視が必要である。

以上、令和2年度卒業時アンケート分析結果から、薬学科と創薬科学科ともに、学生達のディプロマ・ポリシー達成度は概ね適正な水準に到達しているものと評価した。ただし、両学科共に「1.十分に身に付けることができた」と最も肯定的な回答を選択する割合が減少している状況が窺えた。コロナ禍による教育手法の制限を含め、様々な要因を勘案しつつ、今後の推移を注視していく必要がある。また、語学教育やグローバル化対応教育については、ディプロマ・ポリシー達成度向上のための方策を、今後も継続的に検討していくことが必要である。

（２）令和2年度における修学状況データ分析

< 1. 学年別在籍状況（表2-1） >

薬学科と創薬科学科の両方において、いずれの学年においてもストレート在籍率が82%以上となっており、例年と同様に、留年者等の過度な発生状況はない。

< 2. 学年別進級率（表2-2） >

薬学科の直近5年間のデータでは、全学年において進級率90%前後が維持されていることから、休学・退学・留年者数は、適正な範囲内と判断される。昨年度、令和元年度4年次生の進級率が82%と低水準となっていることについて指摘があったが、令和2年度4年次生の進級率は91%と適正な水準まで改善しており、フォローアップが適正に行われたと考えられる。

創薬科学科についても令和2年度データでは、全学年において進級率が90%前後となっており、また平成28年度以降5年間に渡り同程度の水準が維持されていることから、休学・退学・留年者数は、概ね適正な状況といえる。ただし、令和2年度1年次生において、退学者は1名であるが、留年者が7名いることを踏まえ、原因の分析・検討を行うとともに注視が必要と思われる。

< 3. 卒業状況（表2-3） >

薬学科は、卒業率100%を平成28年度以降5年間継続しており、令和2年度ストレート卒業率も84%と、例年と変わらず良好な状況である。

創薬科学科は、令和2年度で卒業率100%、ストレート卒業率81%となっており、過去5年間を含め卒業状況は適正な状況である。

以上、令和2年度における修学状況データ分析結果から、現状の学生受入れ水準設定やカリキュラム編成、成績評価は、両学科ともに適正に機能していると評価した。

(3) 「授業の理解度、難易度、満足度」についての自己点検・評価

(表3、図5、別添資料)

本項目の自己点検・評価を行うにあたり、直近3年間(H29～R1)における薬学部一般講義を中心とした授業評価アンケート結果を分析し、授業満足度向上に向けた方策について検討した。

< 1. 授業評価アンケート等のデータに基づく分析結果 >

授業の「満足度」に関しては、授業評価アンケートの設問「総合的に判断して、この授業に満足しましたか」における数値を参考とした。授業科目ごとに学生満足度の平均値を求めた上で、全科目における学生満足度の平均値を改めて算出し、薬学部全体の満足度としている(以下、理解度及び難易度も同様の手法により算出)。

薬学部全体の満足度は、平成29年度は3.63、平成30年度は3.73、令和元年度は3.70とほぼ横ばいとなっているものの、アンケート結果の各項目を踏まえると、薬学部全体においては改善の兆しが見えてくる(図5参照)。

学生の理解促進の方策として、難易度の高い科目は小テストや中間試験の導入を進めており、時間外学習の総時間数も平成29年度は13.88時間、平成30年度は19.02時間、令和元年度は24.22時間と年々増加している(表3参照)。それに合わせて薬学部全体の理解度は、平成29年度2.79、平成30年度2.82、令和元年度2.87と継続的に上昇しており、また学生の理解度が進むにつれて、学生が感じ取る難易度も、平成29年度3.49、平成30年度3.49、令和元年度3.44と是正傾向にある。

一方で、2、3年次では履修すべき科目数が多いため、1つの科目に費やす時間は少なく(〔1科目平均〕平成29年度：0.58時間、平成30年度：0.67時間、令和元年度：0.83時間)なり、学生の理解度の低下、ひいては満足度の低さに繋がっている原因の1つと考えられる。その他の分析結果は、以下に示す。

- 1) 「わかりやすさ」、「聞き取りやすさ」、「説明補助手段の利用」と「満足度」は明瞭な相関がある。
- 2) 「満足度」の科目毎平均値が4を超える高評価科目数が少ない。実習や演習、概論は一般的に評価が高いが、アンケート調査は一部のみ行われている。
- 3) 満足度とGPC(全履修生のGPを履修者数で割ったもの)は関係しない。
- 4) 高評価科目では理解度を上げる工夫、集中を持続させる工夫がなされている。

～授業評価アンケート概要～

○対象科目数(H29：49科目 H30：60科目 R1：64科目)

○設問選択肢詳細

- ・理解度(1：全く理解できなかった ～ 4：よく理解できた)
- ・難易度(1：簡単だった ～ 3：ちょうどよかった ～ 5：難しかった)
- ・満足度(1：不満 ～ 3：どちらともいえない ～ 5：満足)

＜ 2. 改善策（授業満足度向上のために取り組むべき方策）について＞

上記の分析結果を踏まえ、学生の満足度と「分かりやすさ」「聞き取りやすさ」「説明補助手段の利用」については相関が強く、また高評価科目では、担当教員により理解度を挙げる工夫、集中を持続させる工夫がなされていることから、授業評価アンケートの高評価科目を担当する教員に対してアンケート調査を実施し、薬学部FDにて学生の授業満足度向上のために取り組むべき方策についての議論を行った（別紙資料参照）。

高評価科目を担当する教員へのアンケート調査結果からは、「聞き取りやすさ」と関連して、「学生に確実に声が届くようにマイクの使い方に気を配ること」という内容から「重要な点を何度も繰り返し伝えること」、また「受け手に伝わることを重要視」するなど学生目線に立って講義する工夫が見られた。また学生に伝わるための具体的な方策として、「学生の興味を引く内容（新しい知見・豆知識・実務経験に基づいた内容・授業内容と関連する具体例・国家試験対策・時事的話題）に触れること」や「同じ話は30分以内に切り上げること」などが挙げられた。

さらに「説明補助手段」に関しては、例えば文字の書き方やスピードといった板書の工夫や、生薬サンプル、骨や脳標本を用いて五感で体験してもらうことなど、学生の理解を深める方策が実施されている。

その他にも、討論型のケーススタディ（事例検討）の導入や、計算問題や演習などの組み込み、Googleフォームで確認テストの実施など学習者が能動的に関わることができる機会の創出に関する工夫や、コロナ禍への対応の一環として実施した非対面授業を踏まえて、講義資料を全てWebにアップロードして学生の復習に役立てたり、メールに加えてLINEによる質問を受け付けたりするなど、新たな取組の実施も見られた。

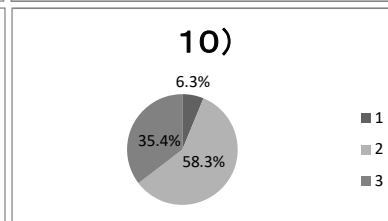
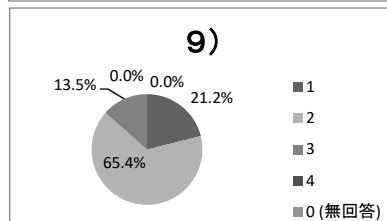
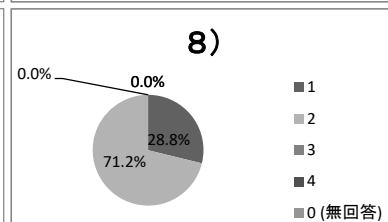
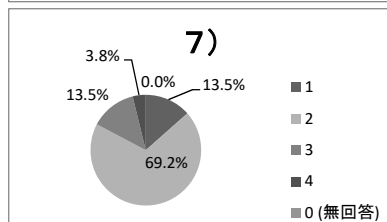
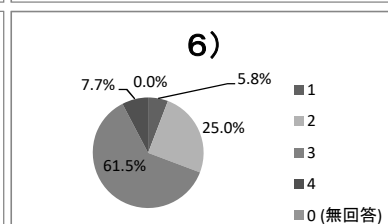
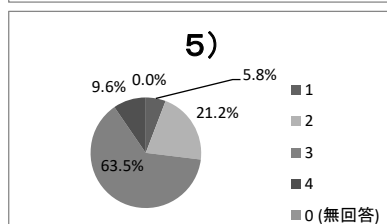
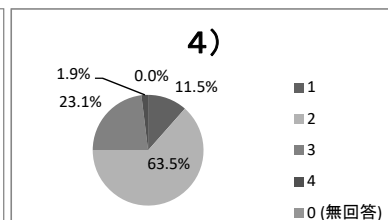
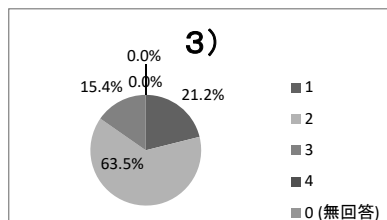
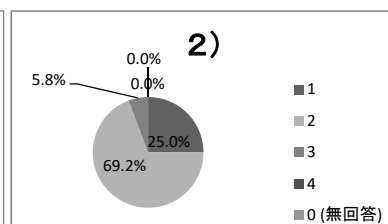
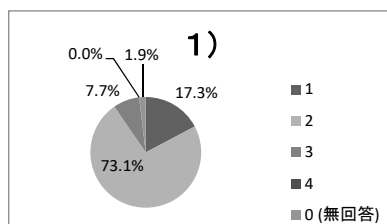
以上、様々な方策を踏まえて、引き続き学生の満足度を高めるために、薬学部において相関関係にあるこれら「聞き取りやすさ」「説明補助手段」について、また、全学において相関を示す「質問の機会の有無」などを意識しながら、大小さまざまな取組を継続的に実施し、効果を見極めていくことが必要である。

卒業時アンケート集計(全学・薬のみ集計)

表1-1

在学時に、以下の能力等をどの程度身につけることができたと思いますか。

アンケート項目		選択肢	2020	比率
1)	課題や問題を自ら解決する能力	1	9	17.3%
		2	38	73.1%
		3	4	7.7%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	1	1.9%
2)	組織や社会の一員として責任を持って行動する能力	1	13	25.0%
		2	36	69.2%
		3	3	5.8%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
3)	他者と協力し合うコミュニケーション能力	1	11	21.2%
		2	33	63.5%
		3	8	15.4%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
4)	口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力	1	6	11.5%
		2	33	63.5%
		3	12	23.1%
		4	1	1.9%
		0(無回答)	0	0.0%
5)	母語以外の外国語(英語などの)語学力(聞く、話す、読む、書く)	1	3	5.8%
		2	11	21.2%
		3	33	63.5%
		4	5	9.6%
		0(無回答)	0	0.0%
6)	国際的な視点で考えることや国際的な感覚	1	3	5.8%
		2	13	25.0%
		3	32	61.5%
		4	4	7.7%
		0(無回答)	0	0.0%
7)	教養教育等による幅広い知識	1	7	13.5%
		2	36	69.2%
		3	7	13.5%
		4	2	3.8%
		0(無回答)	0	0.0%
8)	専門教育による深い専門知識・技能	1	15	28.8%
		2	37	71.2%
		3	0	0.0%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
9)	幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力	1	11	21.2%
		2	34	65.4%
		3	7	13.5%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
10)	地域を志向する意識(富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識)	1	3	5.8%
		2	28	53.8%
		3	17	32.7%
		4	4	7.7%
		0(無回答)	0	0.0%
11)	本学での学生生活で得られたこと、あるいは得られなかったことについて、意見がありますか。 → 自由記述としたため別紙			



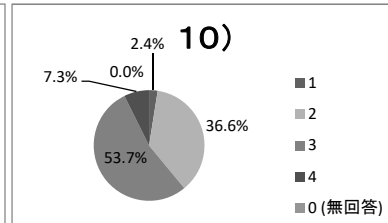
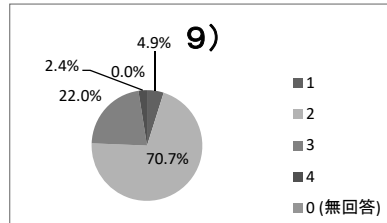
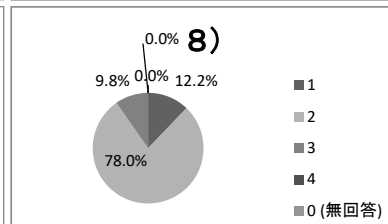
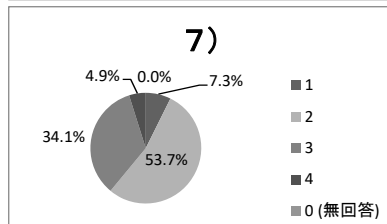
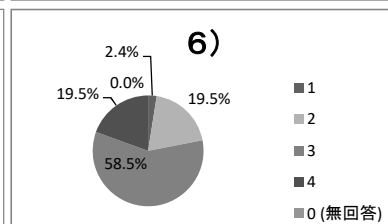
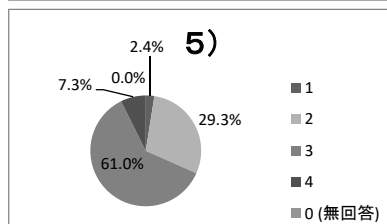
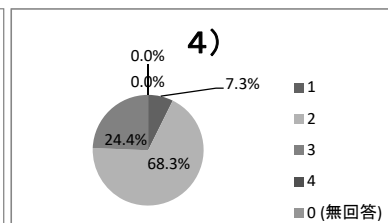
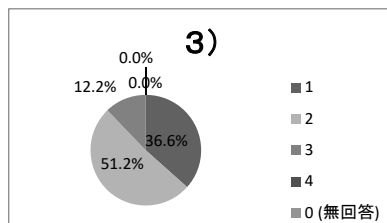
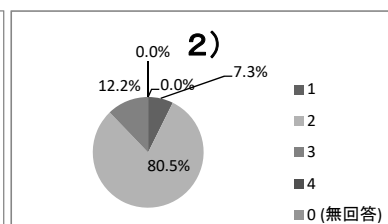
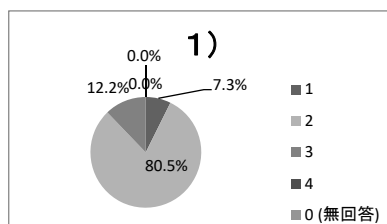
1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
 3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

卒業時アンケート集計(全学・創業のみ集計)

表1-2

在学時に、以下の能力等をどの程度身につけることができたと思いますか。

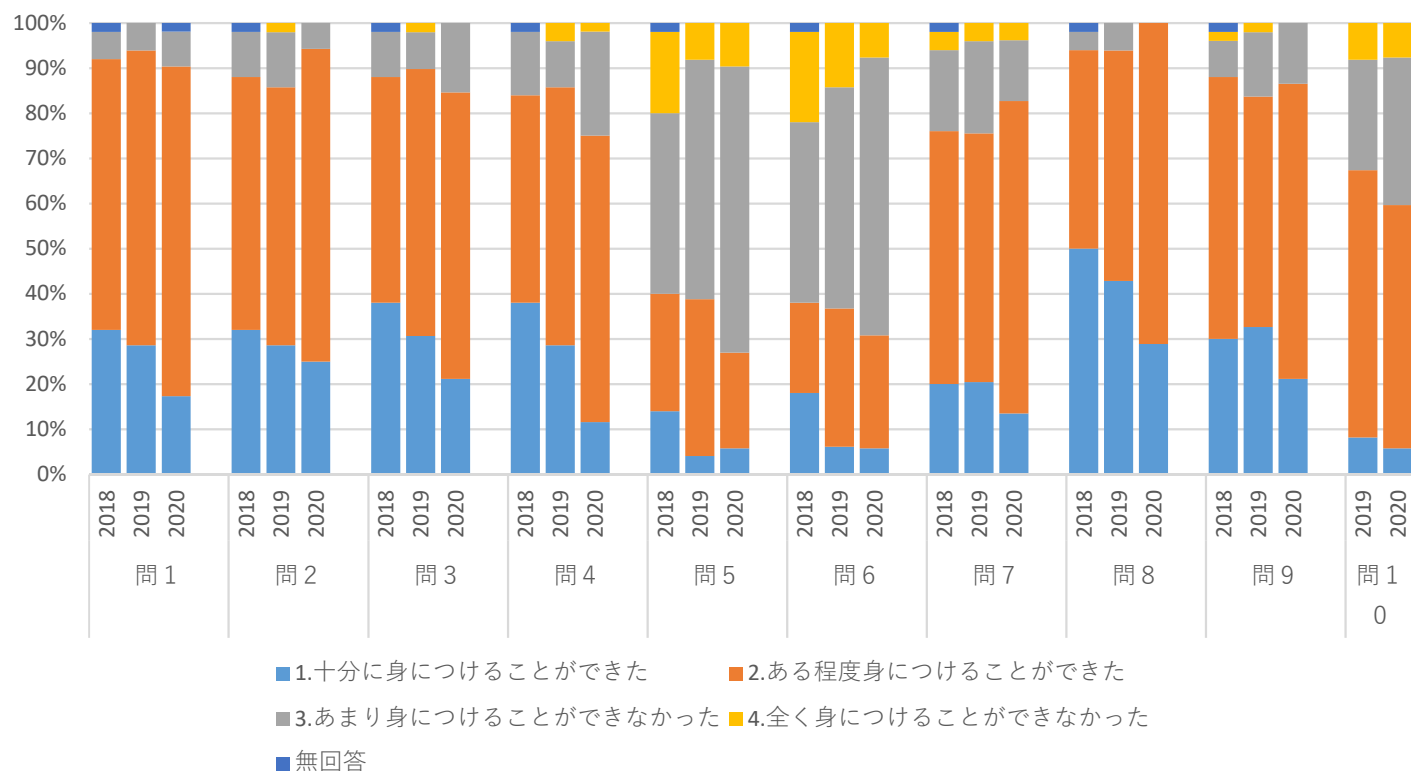
アンケート項目		選択肢	2020	比率
1)	課題や問題を自ら解決する能力	1	3	7.3%
		2	33	80.5%
		3	5	12.2%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
2)	組織や社会の一員として責任を持って行動する能力	1	3	7.3%
		2	33	80.5%
		3	5	12.2%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
3)	他者と協力し合うコミュニケーション能力	1	15	36.6%
		2	21	51.2%
		3	5	12.2%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
4)	口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力	1	3	7.3%
		2	28	68.3%
		3	10	24.4%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
5)	母語以外の外国語(英語などの)語学力(聞く、話す、読む、書く)	1	1	2.4%
		2	12	29.3%
		3	25	61.0%
		4	3	7.3%
		0(無回答)	0	0.0%
6)	国際的な視点で考えることや国際的な感覚	1	1	2.4%
		2	8	19.5%
		3	24	58.5%
		4	8	19.5%
		0(無回答)	0	0.0%
7)	教養教育等による幅広い知識	1	3	7.3%
		2	22	53.7%
		3	14	34.1%
		4	2	4.9%
		0(無回答)	0	0.0%
8)	専門教育による深い専門知識・技能	1	5	12.2%
		2	32	78.0%
		3	4	9.8%
		4	0	0.0%
		0(無回答)	0	0.0%
9)	幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力	1	2	4.9%
		2	29	70.7%
		3	9	22.0%
		4	1	2.4%
		0(無回答)	0	0.0%
10)	地域を志向する意識(富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識)	1	1	2.4%
		2	15	36.6%
		3	22	53.7%
		4	3	7.3%
		0(無回答)	0	0.0%



11) 本学での学生生活で得られたこと、あるいは得られなかったことについて、意見がありますか。
→ 自由記述としたため別紙

1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

【薬学科】卒業時アンケート（全学項目）結果推移



【創薬科学科】卒業時アンケート（全学項目）結果推移

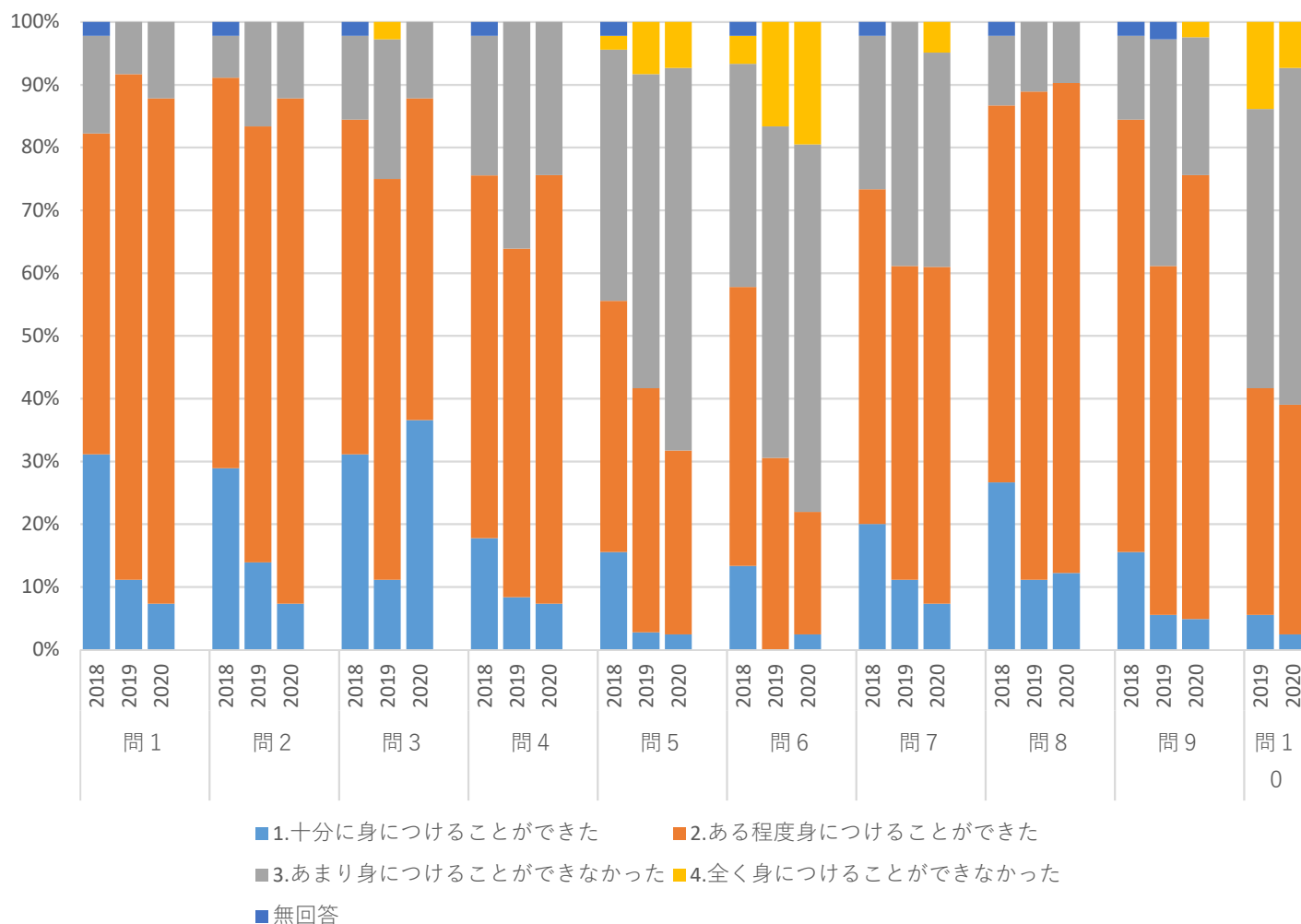
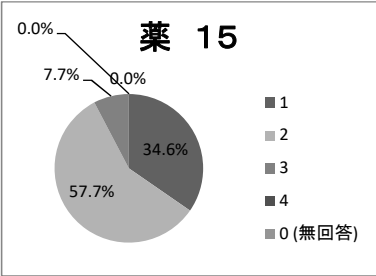
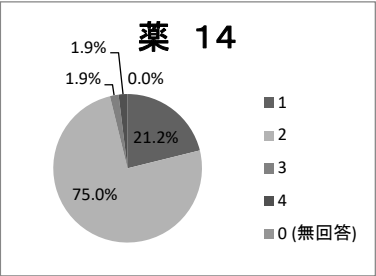
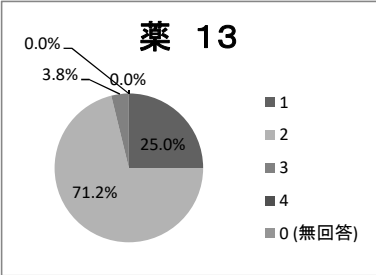
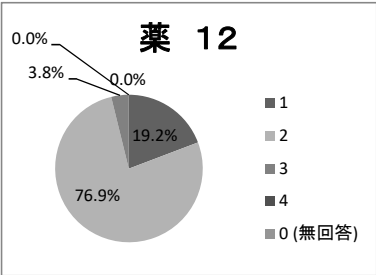


表 1-3

薬学科

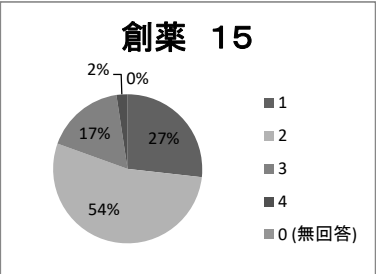
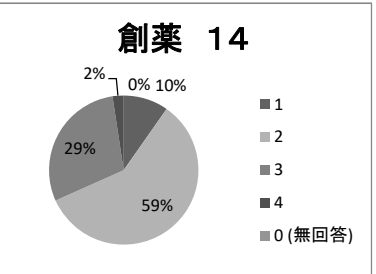
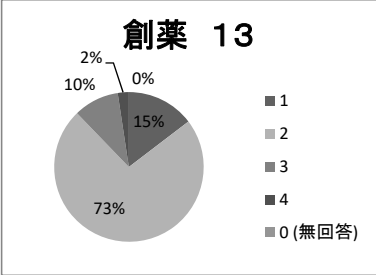
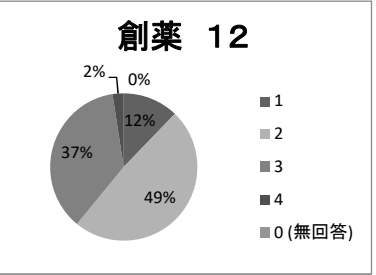
アンケート項目		選択肢	2020	比率
12	健康と疾患に対する洞察力を身に付けることができましたか	1	10	19.2%
		2	40	76.9%
		3	2	3.8%
		4	0	0.0%
		0 (無回答)	0	0.0%
13	薬剤師業務に関する基本的技能を身に付けることができましたか	1	13	25.0%
		2	37	71.2%
		3	2	3.8%
		4	0	0.0%
		0 (無回答)	0	0.0%
14	薬物療法の実践および公衆衛生の向上に寄与する能力を身に付けることができましたか	1	11	21.2%
		2	39	75.0%
		3	1	1.9%
		4	1	1.9%
		0 (無回答)	0	0.0%
15	本学の教育が今後の進路決定に役立ったと思いますか	1	18	34.6%
		2	30	57.7%
		3	4	7.7%
		4	0	0.0%
		0 (無回答)	0	0.0%



1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

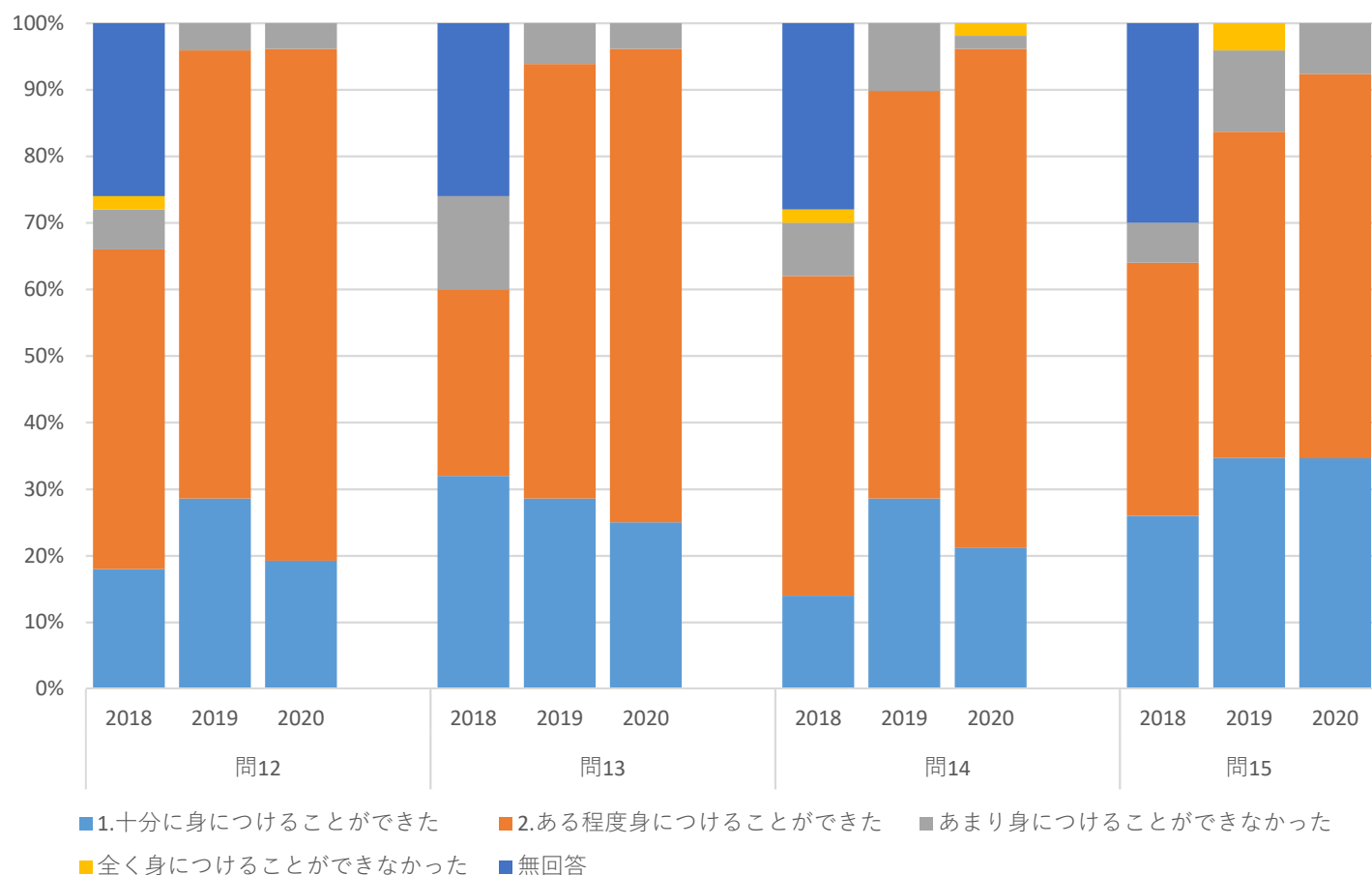
創薬科学科

アンケート項目(創薬科学科)		選択肢	2020	比率
12	自然現象に対する知的好奇心・探求心を身に付けることができましたか	1	5	12.2%
		2	20	48.8%
		3	15	36.6%
		4	1	2.4%
		0 (無回答)	0	0.0%
13	創薬科学に関する幅広い学識と実験技術等を身に付けることができましたか	1	6	14.6%
		2	30	73.2%
		3	4	9.8%
		4	1	2.4%
		0 (無回答)	0	0.0%
14	医薬品創出に取り組むために必要な創造的思考力を身に付けることができましたか	1	4	9.8%
		2	24	58.5%
		3	12	29.3%
		4	1	2.4%
		0 (無回答)	0	0.0%
15	本学の教育が今後の進路決定に役立ったと思いますか	1	11	26.8%
		2	22	53.7%
		3	7	17.1%
		4	1	2.4%
		0 (無回答)	0	0.0%

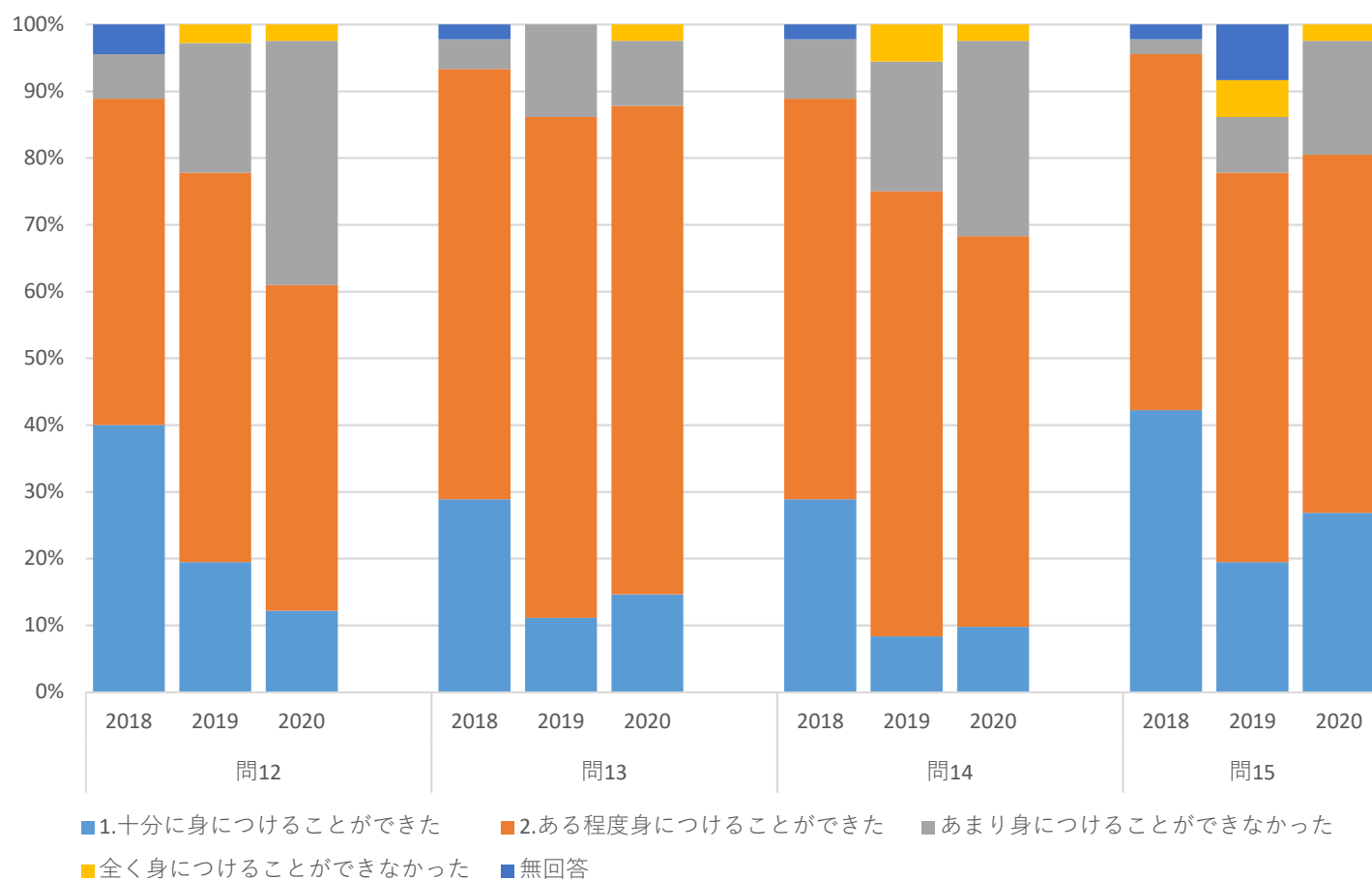


1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

【薬学科】卒業時アンケート（独自項目）結果推移



【創薬科学科】卒業時アンケート（独自項目）結果推移



(薬学科)

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学時の学生数(A)		58	55	59	60	57	56
R3年4月時の在籍学生数(B)		60	54	65	57	63	50
過年度生の数(C)	留年による者	2	0	7	3	13	4
	休学による者	0	1	1	1	0	0
転学科者の数(D)		0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数(E = B - C - D)		58	53	57	53	50	46
ストレート在籍率(E/A)		1.00	0.96	0.97	0.88	0.88	0.82
過年度在籍率(C/B)		0.03	0.02	0.12	0.07	0.21	0.08

(創薬科学科)

学年		1年	2年	3年	4年
入学時の学生数(A)		50	54	55	51
R3年4月時の在籍学生数(B)		57	54	53	45
過年度生の数(C)	留年による者	7	5	4	2
	休学による者	0	0	0	0
転学科者の数(D)		0	0	0	0
ストレート在籍者数(E = B - C - D)		50	49	49	43
ストレート在籍率(E/A)		1.00	0.91	0.89	0.84
過年度在籍率(C/B)		0.12	0.09	0.08	0.04

(薬学科)

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
1年次	在籍者数	59	55	58	64	61	56
	休学者数	0	0	2 1(但し進級)		1	0
	退学者数	2	1	1	0	1	0
	留年者数	0	1	2	2	0	2
	進級率	0.97	0.96	0.91	0.97	0.98	0.96
2年次	在籍者数	63	61	56	54	62	60
	休学者数	0	0	0	0	0	0
	退学者数	0	3	1	0	1	0
	留年者数	4	3	1	0	1	0
	進級率	0.94	0.90	0.96	1.00	0.97	1.00
3年次	在籍者数	57	63	59	57	56	60
	休学者数	1	3	0	0	0	1
	退学者数	1	0	1	0	0	0
	留年者数	3	1	3	2	0	4
	進級率	0.91	0.94	0.93	0.96	1.00	0.92
4年次	在籍者数	55(※)	56(※)	60	60(※)	61	65
	休学者数	3	1	1	3	7	1
	退学者数	0	0	0	1	0	1
	留年者数	0	0	3	3	▲4	1
	進級率	0.95	0.98	0.93	0.88	0.82	0.91
5年次	在籍者数	57	52	55	56	55	51
	休学者数	0	0	0	1	0	1
	退学者数	0	0	0	0	0	0
	留年者数	0	0	0	1	1	0
	進級率	1.00	1.00	1.00	0.96	0.98	0.98

※ 創薬一薬の転学科1名を含む。

▲ うち2名は年度限りで創薬へ転学科

在籍者数は当該年度始め、休学、退学、留年者数は当該年度末の数値

(創薬科学科)

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
1年次	在籍者数	60	63	56	56	59	59
	休学者数	1	1	2	0	0	0
	退学者数	2	1	2	4	2	1
	留年者数	8	3	3	4	5	7
	進級率	0.82	0.92	0.88	0.86	0.88	0.86
2年次	在籍者数	60	53	59	56	50	56
	休学者数	1	1	1	0	1	0
	退学者数	3	0	2	2	1	2
	留年者数	3	0	6	2	3	3
	進級率	0.88	0.98	0.85	0.93	0.90	0.91
3年次	在籍者数	45	57	57	51	52	48
	休学者数	1	0	0	0	0 2(但し進級)	
	退学者数	0	1	0	0	1	1
	留年者数	3	5	1	0	3	2
	進級率	0.91	0.89	0.98	1.00	0.92	0.94

在籍者数は当該年度始め、休学、退学、留年者数は当該年度末の数値

(薬学科)

		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
6年次生(年度末)の在籍学生数(A)		57	52	55	54	54
卒業者数(B)		57	52	55	54	54
卒業率(B/A)		1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
卒業までに要した年数	6年(C)	52	45	50	51	47
	7年	3	2	5	2	5
	8年	2	2	0	1	0
	9年以上	0	3	0	0	2
6年次生(C)が入学した年度の実入学者数(D)		57	57	59	60	56
ストレート卒業率(C/D)		0.91	0.79	0.85	0.85	0.84

(創薬科学科)

		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
4年次生(年度末)の在籍学生数(A)		40	51	57	51	49
卒業者数(B)		40	47	56	50	49
卒業率(B/A)		1.00	0.92	0.98	0.98	1.00
卒業までに要した年数	4年(C)	37	41	47	45	42
	5年	0	4	4	4	4
	6年	2	1	4	0	1
	7年以上	1	1	1	1	2
4年次生(C)が入学した年度の実入学者数(D)		51	53	54	54	52
ストレート卒業率(C/D)		0.73	0.77	0.87	0.83	0.81

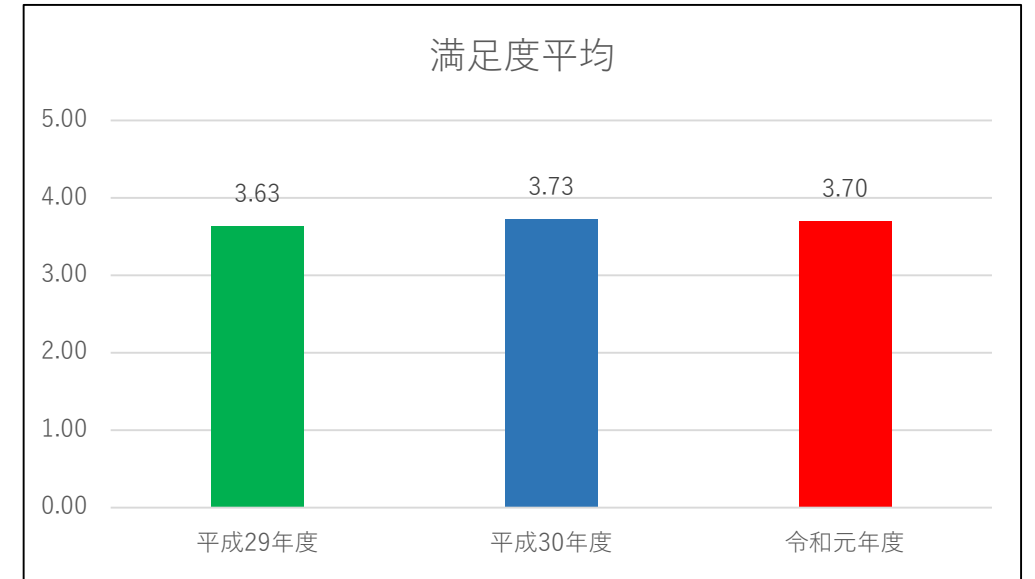
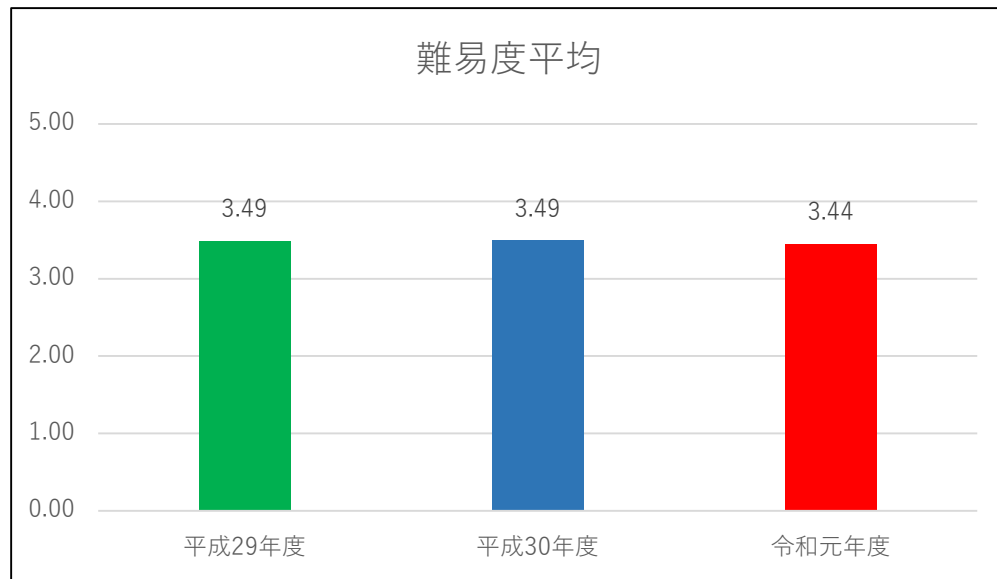
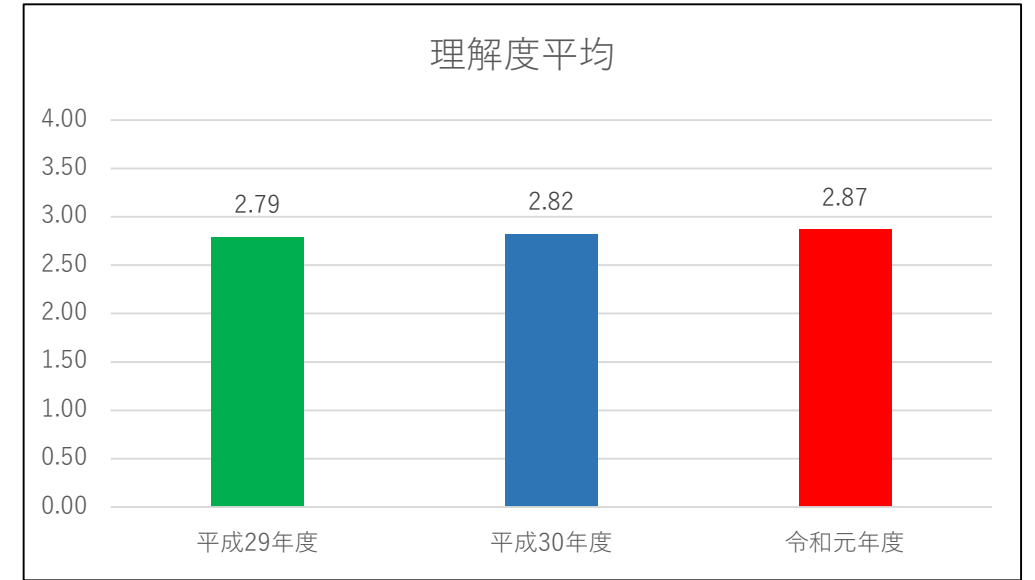
授業評価アンケート結果 (理解度, 難易度, 満足度)

図5

	理解度平均 (4段階評価)	難易度平均 (5段階評価)	満足度平均 (5段階評価)
平成29年度	2.79	3.49	3.63
平成30年度	2.82	3.49	3.73
令和元年度	2.87	3.44	3.70

○設問選択肢詳細

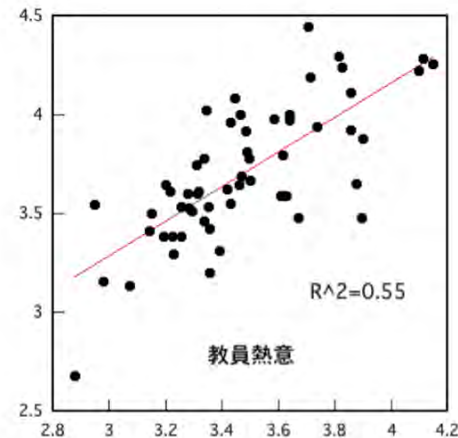
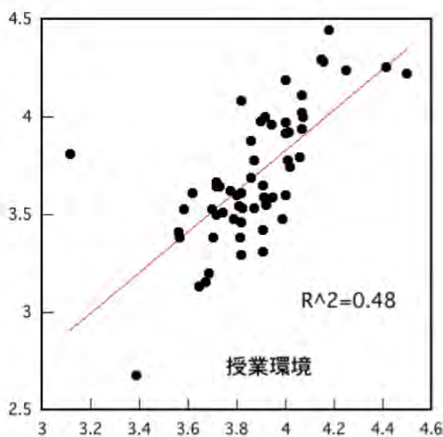
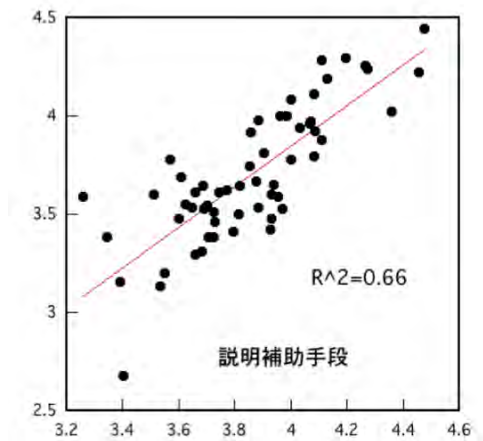
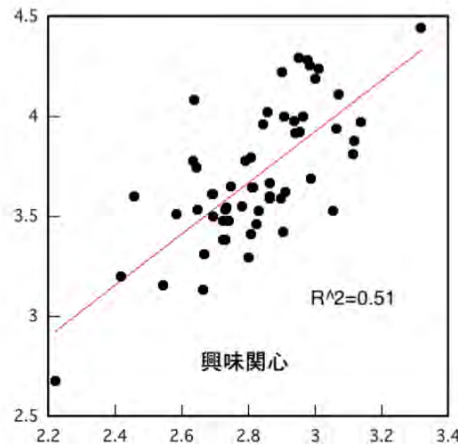
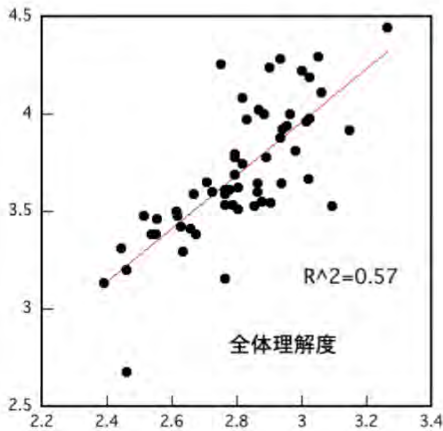
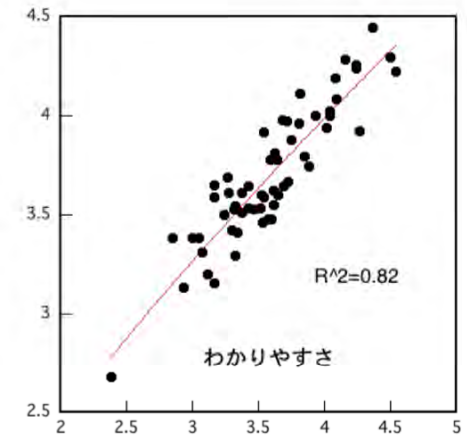
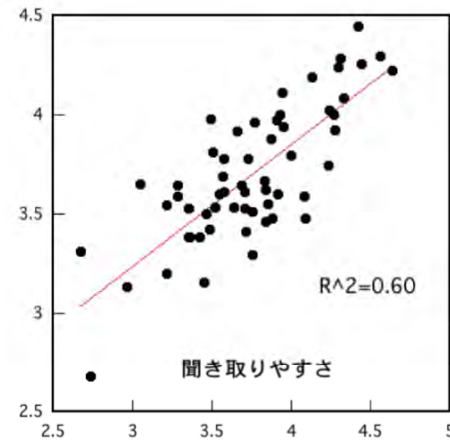
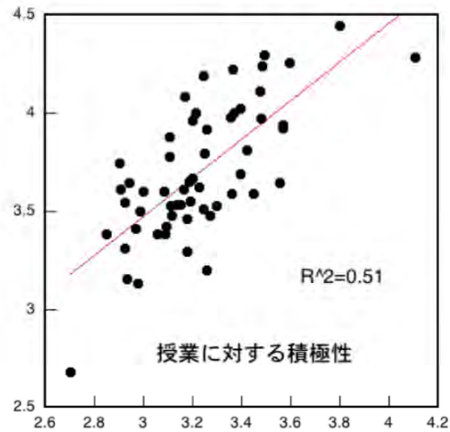
- ・ 理解度 (1:全く理解できなかった 4:よく理解できた)
- ・ 難易度 (1:簡単だった 3:ちょうどよかった 5:難しかった)
- ・ 満足度 (1:不満 3:どちらともいえない 5:満足)



授業評価アンケート項目

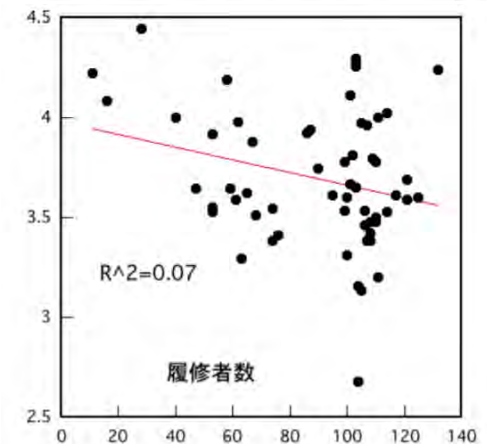
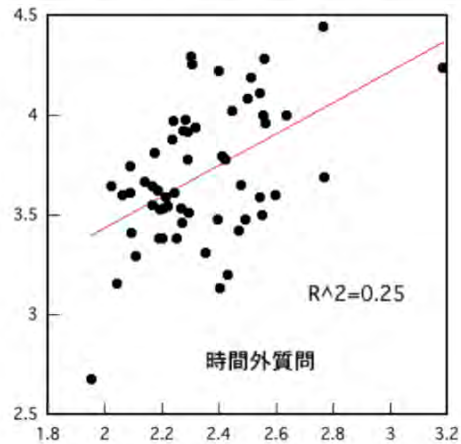
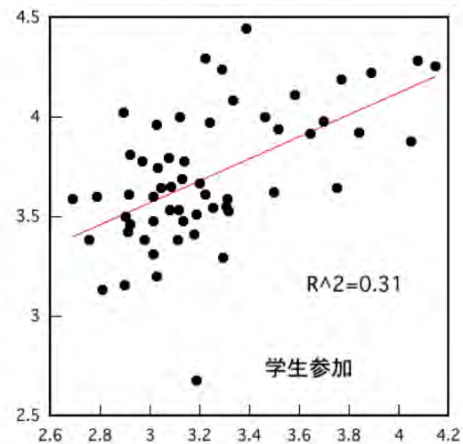
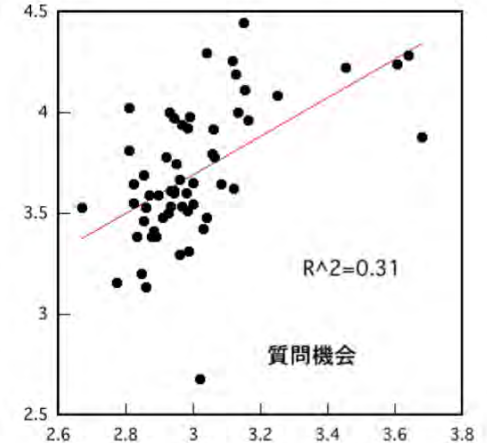
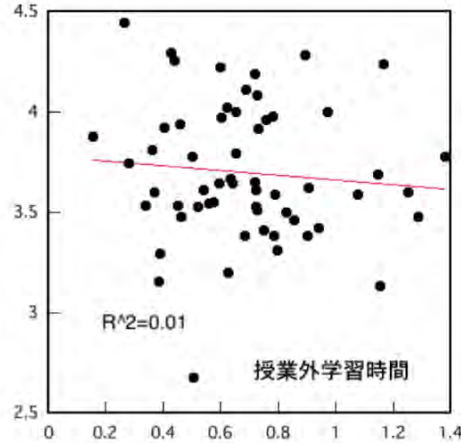
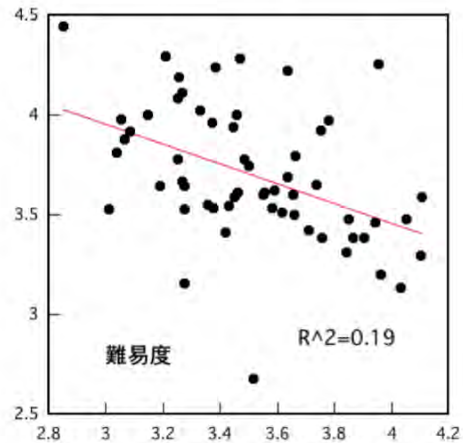
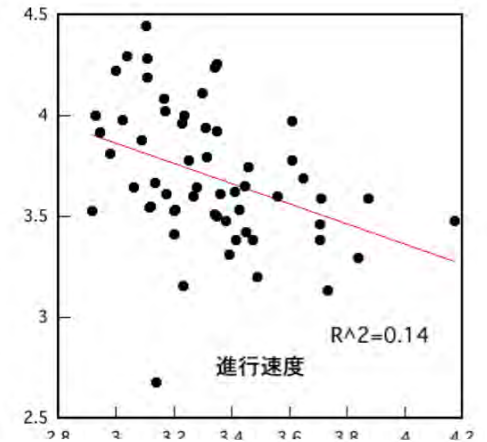
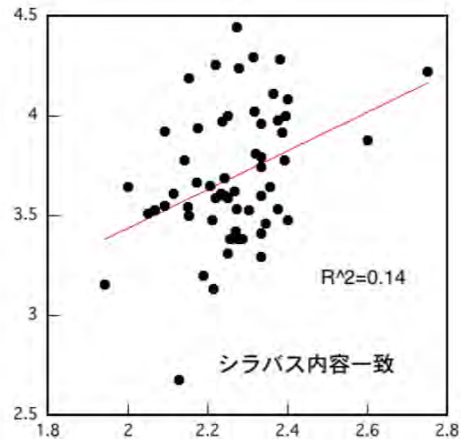
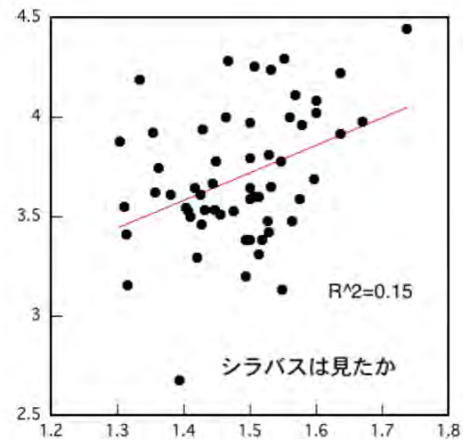
【全学共通項目】	略称	選択項目数
1) あなたは、この授業を何回欠席しましたか。	出欠	0-4
2) あなたのこの授業に取り組む姿勢は積極的でしたか、それとも消極的でしたか。	積極性	1-5
3) 授業開始前にシラバスを読みましたか。	シラバス見たか	1-3
4) 授業内容はシラバスに書かれていた通りでしたか。	シラバス内容一致	1-3
5) 教員の言葉は聞き取りやすかったですか。	聞き取りやすさ	1-5
6) 説明は要領を得て分かりやすかったですか。	わかりやすさ	1-5
7) この授業の進む速さはあなたに合っていましたか。	進行速度	1-5
8) この授業の難易度はあなたに合っていましたか。	難易度	1-5
9) この授業を、全体として理解できましたか。	全体理解度	1-4
10) この授業の分野に対する興味関心は増しましたか。	興味関心	1-4
11) この授業についての授業外での学習（予習・復習・課題など）を、1週間に平均何時間くらいしましたか。	時間外学習時間	1-7
12) 授業について分からないことがあれば質問する機会が与えられていたと思いますか。	質問機会	1-4
13) 板書、プロジェクター、プリント等の説明補助手段は授業内容の理解に役立ちましたか。	説明補助手段	1-5
14) 授業中は集中できる環境が維持されていたと思いますか	授業環境	1-5
15) 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。	満足度	1-5
【薬学部独自項目】		
16) この授業をなぜ履修しましたか。（該当する項目を複数選択可）		1-8
17) 教員は授業の中で学生の参加（質問、発言等）を歓迎しましたか。	学生参加	1-5
18) 教員の授業に対する熱意を感じましたか。	教員熱意	1-5
19) 授業のあとや授業時間外（オフィスアワー）に質問をしましたか。	時間外質問	1-5
<実験・実習の場合には、設問20にも回答してください>		
20) 安全・事故に対する配慮（危険防止に関する事前注意など）がなされていたか。	安全性	1-5

満足度と相関がある項目

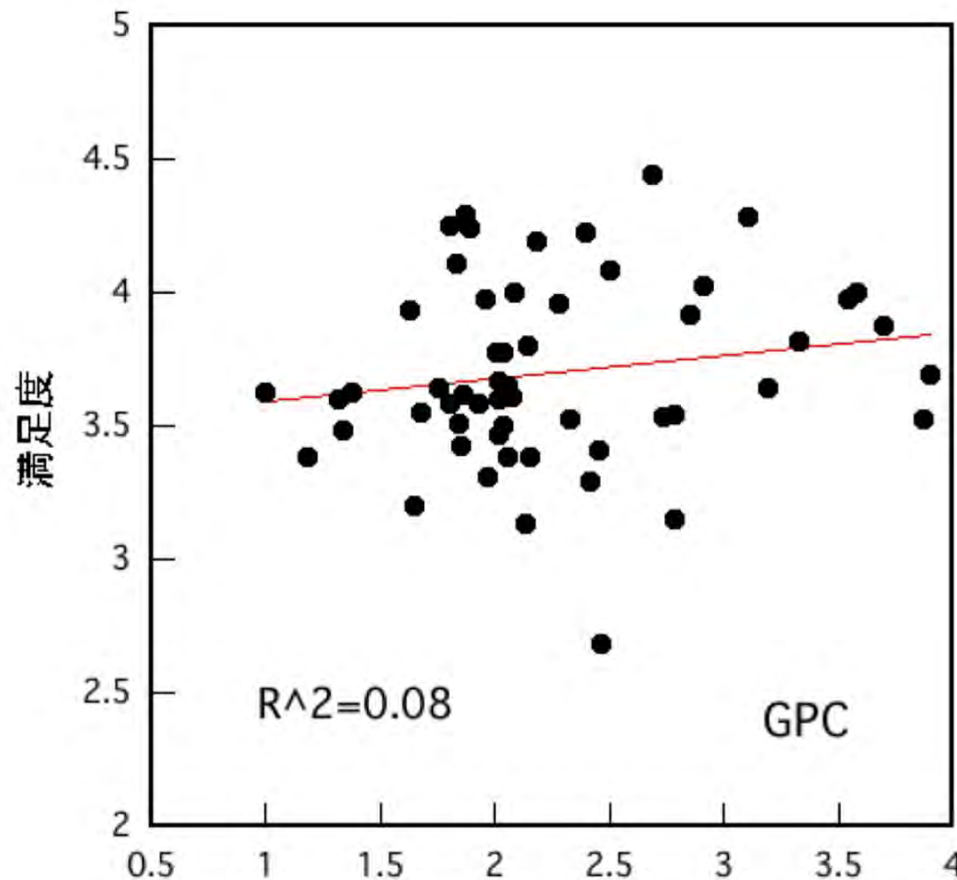


特に「わかりやすさ」は
明瞭な相関がみられ、
「補助手段の利用」は効
果がある。

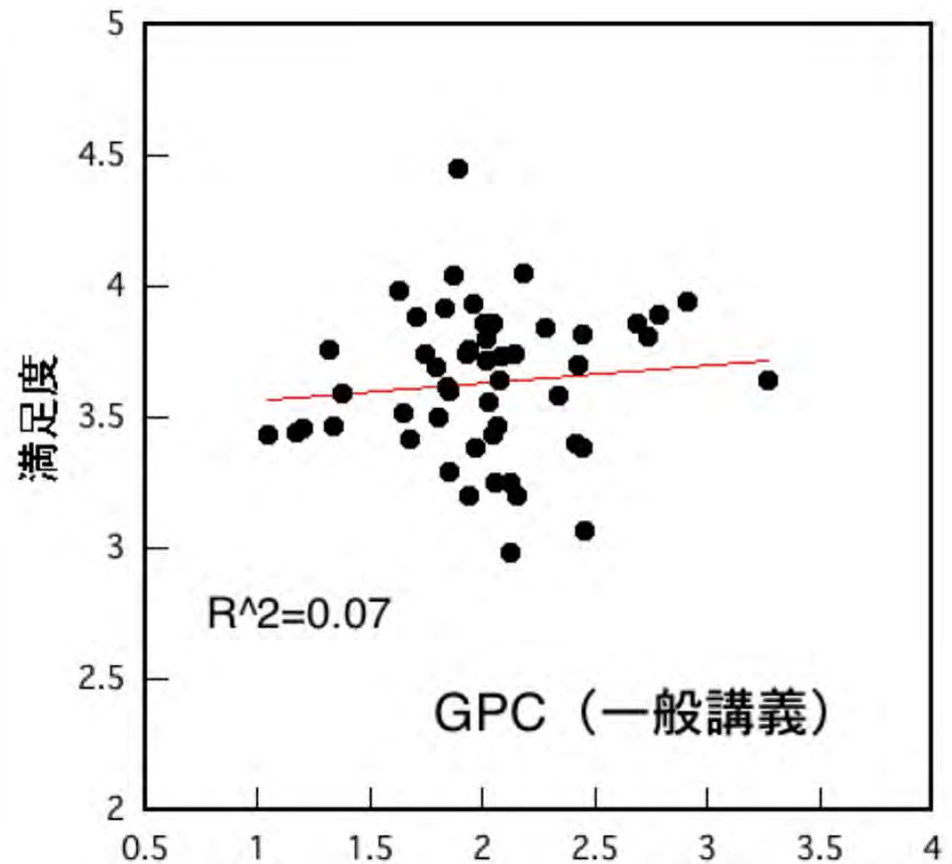
相関がほとんどない項目



GPC (全履修生のGPを履修者数で割ったもの) との相関 (秀:4, 優:3, 良:2, 可:1)



H30年度



R元年度

授業所属	要件科目 コード	要件科目名	授業 形態	単位数	科目数 合計	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 後期	R1 前期	R1 後期	過去3カ年 平均
薬学部	1603135	行動科学	講義	2	2			0.43		0.45		0.44
薬学部	1603240	基礎有機化学Ⅰ	講義	2	2			1.17		1.31		1.24
薬学部	1603260	統計学	講義	2	2			0.51		0.71		0.61
薬学部	1603470	医療学入門	講義	1	2			0.52		0.84		0.68
薬学部	1603480	和漢医薬学入門	講義	1	2			0.36		0.74		0.55
薬学部	1603490	物理化学Ⅰ	講義	2	3		0.51		0.62		0.86	0.67
薬学部	1603500	分析化学	講義	2	2			0.80		0.66		0.73
薬学部	1603510	物理化学Ⅱ	講義	2	3	0.35		0.65		0.67		0.56
薬学部	1603520	生物物理化学	講義	2	3		0.46		0.63		0.79	0.63
薬学部	1603530	基礎有機化学Ⅱ	講義	2	3		0.95		1.08		1.25	1.09
薬学部	1603540	有機化学Ⅰ	講義	2	3	1.19		1.38		1.46		1.35
薬学部	1603550	有機化学Ⅱ	講義	2	3	0.96		1.25		0.96		1.06
薬学部	1603560	生薬学	講義	2	3		0.52		0.82	0.96		0.77
薬学部	1603640	生物薬剤学	講義	2	2			0.69		0.73		0.71
薬学部	1603680	医療薬剤学	講義	2	2		0.40		0.38			0.39
薬学部	1603690	物理薬剤学	講義	2	3		0.62		0.73		0.91	0.75
薬学部	1603780	化学系実習(分子模	実習	1	2				0.90		0.94	0.92
薬学部	1603830	生物系実習(衛生生	実習	1	2	1.04				1.64		1.34
薬学部	1603930	東洋医学概論	講義	2	3		0.60				0.45	0.52
薬学部	1603940	生命情報科学Ⅰ	講義	2	3		0.49		0.94		0.97	0.80
薬学部	1603950	生命情報科学Ⅱ	講義	2	3	0.27		0.54		0.86		0.56
薬学部	1603970	人体機能形態学	講義	2	3		0.48		0.69		0.43	0.53
薬学部	1603980	生理学	講義	2	3	0.55		1.15		1.04		0.91
薬学部	1603990	応用分析化学	講義	2	3	0.49			0.72		0.65	0.62
薬学部	1604000	トランスポーター論	講義	2	3	0.35		0.46		0.70		0.50
薬学部	1604010	構造生物学	講義	2	3	0.57		0.45		0.76		0.60
薬学部	1604020	薬品物理化学	講義	2	3	0.34		0.37		0.66		0.46
薬学部	1604030	無機化学	講義	2	3	0.36			0.46		0.71	0.51
薬学部	1604041	物理有機化学	講義	2	2			0.44		0.67		0.55
薬学部	1604050	機器分析	講義	2	3		0.70		0.97		1.01	0.89
薬学部	1604060	合成化学	講義	2	3	0.54		0.50		0.97		0.67
薬学部	1604070	天然医薬資源学	講義	2	3		0.61		0.65		0.81	0.69
薬学部	1604090	病原微生物学	講義	2	3		0.51		0.72		0.82	0.68
薬学部	1604100	免疫学	講義	2	3		0.76		0.90		1.06	0.91
薬学部	1604130	薬学経済	講義	2	2			0.16		0.42		0.29
薬学部	1604200	創薬化学	講義	2	3	0.54		0.34		0.44		0.44
薬学部	1604210	薬物代謝学	講義	2	1	0.43						0.43
薬学部	1604220	薬物治療学Ⅰ	講義	2	1	0.73						0.73
薬学部	1604230	薬物治療学Ⅱ	講義	2	1	0.82						0.82
薬学部	1604240	薬物治療学Ⅲ	講義	2	1		0.29					0.29
薬学部	1604250	ケミカル・バイオリ	講義	2	3	0.42		0.40		0.82		0.55
薬学部	1604260	ケミカル・バイオリ	講義	2	3	0.27		0.28		0.76		0.44
薬学部	1604270	富山のくすり学	講義	2	3		0.44		0.58		0.70	0.57
薬学部	1604280	分子遺伝動物学	講義	2	3		0.66		0.44		1.00	0.70
薬学部	1604290	コミュニケーション	講義	1	1	0.53						0.53
薬学部	1604300	東西医薬学	講義	2	3	0.30		0.26		0.14		0.24
薬学部	1604310	薬物動態学	講義	2	3		0.68		0.56		0.77	0.67
薬学部	1604350	知的財産概論	講義	1	2	0.50		0.73				0.61
薬学部	1604370	先端分子薬学	講義	2	3		0.59		0.75		1.02	0.79
薬学部	1604400	臨床薬物動態学	講義	2	2	0.63		0.60				0.61
薬学部	1604420	生化学Ⅰ	講義	2	3	0.46		0.78		0.71		0.65
薬学部	1604430	生化学Ⅱ	講義	2	3		0.60		0.83		0.80	0.74
薬学部	1604440	微生物学	講義	2	2		0.55				0.84	0.70
薬学部	1604450	衛生薬学Ⅰ	講義	2	3	0.64		0.63		0.71		0.66
薬学部	1604460	衛生薬学Ⅱ	講義	2	2				0.60		0.88	0.74
薬学部	1604470	衛生薬学Ⅲ	講義	2	3		0.75		0.73		0.73	0.74
薬学部	1604480	基礎薬理学Ⅰ	講義	2	3	0.51		0.60		1.00		0.70
薬学部	1604490	基礎薬理学Ⅱ	講義	1	2				0.86		1.08	0.97
薬学部	1604500	病態薬物治療学Ⅰ	講義	1	3		1.20		0.91		1.09	1.07
薬学部	1604510	病態薬物治療学Ⅱ	講義	2	2			0.79		0.84		0.82
薬学部	1604520	病態薬物治療学Ⅲ	講義	2	2			0.39		0.67		0.53

※同一年度学期に同一科目が複数開講されている場合は、その平均値を算出。

科目毎授業外学習時間調

授業所属	要件科目 コード	要件科目名	授業 形態	単位数	科目数 合計	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 後期	R1 前期	R1 後期	過去3カ年 平均
薬学部	1604530	保険薬局学	講義	2	1					0.45		0.45
薬学部	1604540	病院薬学	講義	2	2			0.73		1.06		0.89
薬学部	1604550	疾病医療学	講義	2	1						0.45	0.45
薬学部	1604580	有機化学Ⅲ	講義	2	3		0.60		0.76		0.83	0.73
薬学部	1604610	薬学英语Ⅰ	講義	1	3			0.78		1.00		0.89
薬学部	1604620	薬学英语Ⅱ	講義	1	3				0.69		0.78	0.74
					平均	0.55	0.61	0.62	0.73	0.81	0.84	0.69
							0.58		0.67		0.82	
					合計	13.78	13.98	19.13	18.91	25.82	22.61	
							13.88		19.02		24.22	

※同一年度学期に同一科目が複数開講されている場合は、その平均値を算出。

高評価授業のアンケートのまとめ

<心がけていること>

- ・大切なのは「伝わる」こと。話し手がしゃべっても、受け手が理解して納得しなければ伝わらない。
- ・学生が理解しやすい、興味を持ちやすい話し方をする。
- ・講義では重要な点を何度も繰り返し言う。
- ・楽しそうに話す（実際楽しくやっています）
- ・平易な内容・簡潔な説明・見やすい図・資料を全てオープンにする。
- ・プリント記載事項が適切であるように心がけています。
- ・どうしたら理解度が上がるか常に考えて実践するようにしています。
- ・臨床的観点だけでなく、創薬的な観点から学ぶことができるような講義とする。
- ・pptを使わない・資料に書いてあっても、板書する
- ・15回の講義分をノートに書き取れば1冊の教科書ができあがるつもりで板書をする。
- ・新しい知見や、豆知識を多く取り入れて、変化のある授業を心がけています。
- ・自らの実務経験に基づいた内容をできるだけ講義中に紹介する。
- ・学生の反応や声をできる限り拾うようにしています。
- ・学生が質問しやすい雰囲気づくり
- ・学生のニーズを出来るだけくみ取って講義の内容を構成している。
- ・学生目線でどこがわかりにくいだろう、どこが疑問点かと考え、その内容を説明する。
- ・国家試験対策にもなる内容を毎回の講義の中に少しずつ盛り込む。
- ・授業の負担が過剰にならないように配慮している。

高評価授業のアンケートのまとめ

<授業で工夫されていること>

- ・マイクにしっかり声が入るように、板書時には、大きく濃い字になるようにする
- ・学生のノートとりが終わるのを待つようにしている
- ・授業では板書を丁寧にする意識をしています。
- ・学生が、眠くならないように飽きさせないような講義を行う。
- ・五感の活用：スライドは極力きれいなものを用いる。また生薬のサンプルを授業中に回して形状や香りを確認してもらっています
- ・前列の学生に問いかける
- ・計算問題や演習など、学習者が能動的に関わることができる機会を準備する。
- ・学生の集中力を保つために、講義の途中で5分間の休憩を入れています。
- ・小テストの活用
- ・授業の最後にGoogleフォームで確認テストを行う。次回の授業の最初にフィードバックを行う。
- ・授業内容と関連する具体例（時事問題や時には創作も）を取り上げる。
- ・臨床例での病態認識や治療概念を提示する
- ・学生が「全体像を見失わない」ように工夫し、学生にも注意を促している。
- ・できるだけ多くの質問を受け付ける環境を作るのが大事。

高評価授業のアンケートのまとめ

<実践例①>

- ・ 復習問題の解答と解説、中間テスト（第8回 & 15回講義時）
- ・ 最近の新聞やテレビなどで取り上げられたくすりに関するニュースについて話す。
- ・ 講義資料は全てWebにアップロードして、あとで復習しやすいよう工夫しました。
- ・ 2019年度は他の試験が行われない8月上旬に試験を行うことで、予想以上の成績アップにつながりました。
- ・ 授業の一部に薬剤師としての技能・態度を涵養する内容を取り入れている。
- ・ 演習は出来るだけグループワークの形式を取るよう勧める。
- ・ 小テストの時間を確保するため、板書は行わないでスライドを使って講義しています。学生の集中力を保つために、30分間程度の講義を行った後は必ず5分間休憩を入れています。休憩後に30分間スライドを使って講義を行っています。残りの時間で講義内容についての小テストを行っています。
- ・ Moodleでの小テストの提供による、自主的学習環境の構築と、メールなどでの質問へのこまめな対応を心掛けています。今年度は例年の手段に加えてLINE公式アカウントを運用したところ、非対面授業ということもあるでしょうが、学生からの質問がかなり増えました。ほかにも質問対応の窓口はいくつか用意し、直接質問できないような学生でも質問しやすいようにしています。

高評価授業のアンケートのまとめ

<実践例②>

- ・ 30分程度、個人的な自修では困難な、討論型のケーススタディ（事例検討）を取り入れている。
- ・ 原則として、同じ話は30分以内に切り上げます。
- ・ 「行動科学」では、物質の構造や生体の解剖は主たる対象ではないので、パワーポイントのスライドを用いる必要性がありません。むしろ、人間の心理的な部分と生理的な部分の関連を扱うので、事物の考え方などがメインです。以上から、基本的には板書で授業を進めています。
- ・ 酸素分子の分子軌道を説明する前に、酸素の特徴（助燃性、常磁性）は何かと問いかけ、常磁性の例え話として、酸素は液体や固体なら磁石にくっつくことを紹介し、それはなぜそうなるかを分子軌道を元に説明する。
- ・ オンラインでは、小テストに実際の薬剤師国家試験問題をアレンジした問題を用いて、実際の試験を意識させて知識の定着を図った。
- ・ 骨や脳標本を触っての実習。
- ・ 授業中に小問題を出して回答させる。
- ・ 授業中に指名して質問をする。
- ・ 板書をわかりやすくする。